

公認会計士試験合格者採用案内

M&A分野で生かす会計士資格

ワークライフバランスも維持できるPwCアドバイザリーでの働き方



PwCアドバイザリー合同会社

財務会計やファイナンスに精通した 「真のプロフェッショナル」を目指す皆さまへ



会計士が活躍できる 大きな可能性を秘めた舞台

PwCアドバイザリー合同会社は、公認会計士試験の合格者が、会計監査だけではなく、フィールドを拡大して活躍できる舞台を用意しています。

例えば、M&A取引（ディール）において、近年クライアントから必要とされているのが、交渉で提示する条件などに数字の裏付けができる人材です。そして、事業再生の分野においても、定量的な情報に基づくアドバイスを行える人材は、決して多いとはいえません。会計士試験に合格した皆さまが習得した専門知識や、会社法・経営・ファイナンスに関する知識を生かし、高いパフォーマンスを発揮するために、当社はまさに最適の環境です。

また、156カ国に295,000人以上のスタッフを擁するPwCグローバルネットワークを展開していることから、クロスボーダー案件の割合も非常に高くなってきています。海外ファームへの出向など、国際的な活動をしたいという人にとっても、最適な環境を用意しています。

「真のプロフェッショナル」を育成する 万全なサポート体制

PwCアドバイザリー合同会社には、多様な専門性を持つプロフェッショナルが多く在籍し、新聞の一面を賑わすようなプロジェクトに取り組んでいます。特に注力分

野である日本企業の海外M&Aや大型の事業再生においては、業界内でトップクラスの実績を有しています。ディールアドバイザリーというフィールドにおいて、公認会計士という「資格」は必須ではありませんが、非常に有用なツールであり強みになります。この資格を強みに、高い専門性を持った「真のプロフェッショナル」となることを一緒に目指してみませんか。

私たちは人材育成にも力を入れており、社内研修をはじめさまざまな人材開発プログラムを用意しています。公募による異動制度、PwCの海外メンバーファームのディールチームとの連携、事業会社・証券会社・PEファンドなどへの出向制度も整備し、プロフェッショナルとしての長期的なキャリア形成をバックアップいたします。

皆さまの挑戦が日本経済の挑戦へ

私たちは、ディールアドバイザリーの世界に魅せられた「熱い心」と「冷静な頭脳」を併せ持つプロフェッショナル集団です。日本企業の世界進出拡大や企業価値向上について、ディールを通じてサポートすることを渴望する情熱的な皆さまの、既存の枠組みにとらわれないチャレンジングな選択を待っています。

PwCアドバイザリー合同会社

代表執行役

公認会計士

吉田 あかね Yoshida Akane

クロスボーダー、または国内M&Aの実行および買収後の経営（Post Merger Integration: PMI）に関するアドバイザリー業務に従事。また、事業の一部譲渡取引（カーブアウト取引）に関する売り手側、買い手側に対する助言や、共同出資（ジョイントベンチャー）の組成やグループ内再編など、事業や企業の国内外の再編に関して幅広い経験を有する。

大手監査法人における法定監査、内部統制構築、IPO支援などを経て、2005年外資系大手広告会社のグループコントローラーとして国内グループ会社12社の財務統括業務に従事、グループ内再編に関わる事業統合をリード。

2009年より現PwCアドバイザリー合同会社に参画。現在は、M&A戦略の策定や、デューデリジェンス、事業の一部譲渡に関する売却および買収実行、M&A後の経営統合、事業再編における組織体制構築など、日本および外国企業のクロスボーダー取引に関するハンズオンでの支援を実施。M&A完了後の価値の最大化を最重要課題と考え、取引実行からPMIまでの過程を通じ、最適なオペレーションモデルとビジネスガバナンスに関するアドバイスを提供。

PwC Japanグループ・業務内容

PwC Japanグループについて

PwC Japanグループでは、監査およびアシュアランス、コンサルティング、ディールアドバイザーおよび税務、法務のプロフェッショナルが緊密に連携し、国内外におけるさまざまな業界に属するクライアントの課題解決を支援しています。

Client



小売・サービス
卸売、消費財
食品、農林水産、繊維



医薬、ヘルスケア
ライフサイエンス



機械、化学、金属
ゴム、ガラス、土石
紙、その他製品



電機、エレクトロニクス
情報通信、メディア
テクノロジー



自動車



陸海空運、倉庫



総合商社



鉱業、石油、石炭
電気、ガス



不動産、建設



銀行、保険、証券
その他金融



プライベートエクイティ
資産運用



政府、中央省庁
地方公共団体

Consulting

PwCコンサルティング
合同会社

Assurance

PwCあらた有限責任監査法人
PwC京都監査法人

Deal Advisory

PwCアドバイザー
合同会社

Tax

PwC税理士法人

Legal

PwC弁護士法人

PwCアドバイザーで入社後に従事できる主な業務

PwCアドバイザー合同会社は、M&A、事業再生・再編、インフラ関連の高い専門性を活用し、変化する企業の成長戦略の実現を支援しています。入社後はDeals Execution Teamに所属し、以下の6つの領域について、希望に応じた柔軟なアサインがなされ、個人ごとにカスタマイズされたキャリア形成がなされます。

Financial Analysis

フィナンシャルアナリシス

- ・ 財務デューデリジェンス
- ・ SPA作成等に係る財務的観点からのアドバイス等

Valuation & Modeling

バリュエーション & モデリング

- ・ バリュエーション
- ・ 財務モデリング

Corporate Finance

コーポレートファイナンス

- ・ ファイナンシャル・アドバイザー業務

Restructuring & Operation Improvement

事業再生 / オペレーション改善

- ・ 再生計画策定、資金繰り改善
- ・ 再成長 / アライアンス戦略策定、実行支援
- ・ 金融機関対応、モニタリング支援
- ・ M&A 統合支援、カーブアウト支援、オペレーション改善

Deals Strategy

ディールズストラテジー

- ・ ビジネスデューデリジェンス
- ・ M&A 戦略・事業戦略
- ・ グループ会社再編支援

Infrastructure & Urban Renewal

官民インフラ

- ・ 民営化、プロジェクトファイナンス
- ・ 官民パートナーシップに関するアドバイス



公認会計士
パートナー

加藤 雅也 Kato Masaya

1995年に大学卒業後、上位都銀に入行。法人営業を3年経験。退職後2年で公認会計士試験合格、2015年までPwCあらた有限責任監査法人でメガバンクの監査を担当。2006年よりアドバイザー業務を担当、途中2年のNYオフィス出向を経験。2015年パートナーとなり、PwCアドバイザー合同会社に転籍。

一貫して金融機関を担当

大学卒業後、都銀に入行し第一次金融危機で金融機関の破たんを目の当たりにして、2年で銀行を退職しました。その後公認会計士試験に合格して、転職を決め、2015年までPwCあらた有限責任監査法人で監査業務に従事しました。入社した当時は銀行出身の公認会計士はほとんどおらず、メガバンクの監査チームに所属し、2年目に主査となり5年間金融機関の監査業務を担当しました。

2000年代前半は銀行が不良債権で苦労した時代で、監査も激務でした。2006年から金融機関をクライアントとするアドバイザー業務担当となり、2015年にパートナーとなったことを機に当社へ転籍しました。以上のように私は、一貫して金融業務に携わり、キャリアを築いてきました。

アドバイザー業務の醍醐味

この仕事を通して充実感を持つことができるのは、金融機関の経営に寄り添い、経営戦略と一緒に企画立案する過程で、公認会計士としてサポートしていることを実感できるためです。クライアントに難しい判断をしていただき、その事案が3カ月後、半年後に大手経済紙の一面に載ったときなどは、大きな仕事を成し遂げたと実感できます。

私は金融機関の出身でもあり、日本の金融機関は健全で社会の役に立つ存在でなければならないと考えています。そのための手助けとして、今一番意義のある場所で支援できるのはおそらくM&Aや組織再編だと思います。

もはや、公認会計士試験合格後に監査業務という選択肢しかなかった時代ではなく、専門家として一日も早くクライアントに役立つ経験と知識を身に付け、現場で活躍すべきだと思います。「将来的にM&Aをやりたいのであれば、将来ではなく今すぐにやりましょう」というのが私の考えです。当社でM&Aのディールに1年在籍すれ

ばDD(デューデリジェンス)やバリュエーションを10~15件、2年で20~30件経験できます。早い段階で専門家としての力を発揮するには、従前のように監査業務を経験してからというのではなく、合格後すぐにアドバイザー業務に従事するのが良い選択と考えます。

働きやすい職場を追求して高いものを目指す

「M&A、組織再編、事業再生などを通じて、クライアントやそれを巻き込む経済社会の発展に資する」。この目的のために当社は、クライアントの経営陣、企画部門に寄り添った支援ができるプロフェッショナルファームを目指しています。そのために、所属する公認会計士それぞれがプロフェッショナルとして活躍できるよう、男女関係なく働きやすい職場であることを追求しています。例えば、リモートワーク、フレックスタイム制および男女共に取得できる育児休暇制度などの制度が当たり前運用されています。また、研修やOJTのプログラムを整備しており、修了審査に合格するためのサポート体制は、監査法人と同等の内容を整えています。もちろんですが、公認会計士の先輩としては、皆さんの自律的な姿勢に大いに期待しています。

PwCアドバイザーでは、このような職場において、個人の能力を尊重し、全ての世代が協力することで、会社として高いものを目指し、クライアントからの信頼を獲得できるよう努力を続けておりますので、この考えに共感できる人にはぜひ門を叩いていただきたいと思います。



公認会計士
ディレクター

細田 奈月 Hosoda Natsuki

2003年大学卒業後、監査の道に進み、2006年まであらた監査法人（現PwCあらた有限責任監査法人）で事業会社の会計監査業務を担当。2007年に現在のPwCアドバイザリー合同会社へ転籍し、主に財務DD業務に従事。2015年育児休暇取得。



プロフェッショナルとしての醍醐味

私はPwCあらた有限責任監査法人で監査業務を一通り経験した後、よりステップアップしてクライアントに近い立場でアドバイスができる仕事がしたいと考え、2007年にPwCアドバイザリー合同会社への転籍に踏み切り、当社で主に財務DDを担当しています。

ディールの検討において、対象会社の財務実態を正しく理解し、財務リスクを洗い出したり、過去実績を踏まえた将来性を検討したりすることは重要なことであり、会計士ならではの強みを発揮できる分野です。単にDD結果をレポートにまとめ報告するだけでなく、FA（フィナンシャルアドバイザー）と協力して買収価格に反映させたり、買収契約書に入れ込むべき条項を弁護士と一緒に検討したり、ポストディールに向けた課題をPMI（Post Merger Integration：買収後の経営）担当者に引き継いだりなど、多くの関係者と連携しながら案件を作り上げていくところが、この仕事の面白いところです。クライアントのニーズや案件の性質、対象会社の業界などに応じて毎回異なる対応が必要となり、幅広い視野や論理的思考力が求められますが、クライアントに寄り添い、ディールを通じたクライアントの価値最大化をサポートさせていただくところに、プロフェッショナルとしての醍醐味を感じます。

多様な働き方が可能に

私には小学生の子どもがおり、仕事と家庭の両立は常に課題とはなりますが、今は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響でリモートワークになっているため、通勤時間の分も有効利用したり、仕事の合間に家事をしたりするなど、より両立がしやすい環境になりました。プロフェッショナルとして、やるべきことをしっかりこなしていれば、働く時間や場所は問われないことを改めて実感しています。

出産や育児についての制度が整備されており、職場復帰後も時短など多様な働き方が可能です。ここ数年世

の中の動きに合わせてさらに多様な働き方への理解が進み、女性だけでなく男性も保育園のお迎えで早めに退社したり、育児休暇を取得したりするのが当たり前になっています。

女性の先輩の中に子育てをしながら働いている方がいて、時々ランチを共にしてプライベートの相談にも乗っていただき心強く思いましたが、最近は逆に私が産休等に関する相談を受ける側にもなりました。自然発生的に女性同士の助け合いが行われ、また女子会やワーキングマザーの会など個人的なつながりを超えた仕組みが存在しているのも心強く感じます。

成長したい人にとって格好の場

当社は、会計士だけではなく、金融機関やコンサルティング会社、事業会社など、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちが集まっており、多様な知見に触れることで日々刺激を受けています。最近は多くの部署が連携して業務を進める傾向が強くなっており、それまでできなかった提案を行うことも可能になりました。

部署異動や海外・外部への出向も柔軟にでき、いろいろなことにチャレンジしたい人であれば、男女に関係なく成長するチャンスが与えられます。

会計士の知識を生かしつつ、多様な人たちと連携し、ディールのあらゆる局面でプロフェッショナルとして活躍できる場が広がっていると思います。



公認会計士
ディレクター

宇恵 望 Ue Nozomi

2007年中堅監査法人入社、監査を中心にデューデリジェンスなど幅広い業務を経験。2014年より2年間、リノベーション物件の不動産投資を手掛ける事業会社に経営企画室長として勤務。2016年PwCアドバイザリー合同会社に入社、主にバリュエーション業務に従事。

知的好奇心を刺激される

当社には、専門性を突き詰める人、ビジネスに特化してクライアントの投資採算を追求する人など多様な同僚がおり、知的好奇心が満たされるという点で非常に刺激を受けています。

また、クライアントのビジネスのあり方自体が変化し続けており、知識のバックボーンとされている理論も経済学と同様アップデートされるため、私が今手掛けている仕事は、知識のバックグラウンドにゴールがない領域だと感じています。

当社の業務の一つであるモデリングは、事業計画の策定支援に近いイメージです。複雑な事業を展開しているクライアントの場合、売上のパラメータとしてさまざまな要素が存在します。それらの要素を変えたらどのような結果になるか、シミュレーションを行うための、いわば土台を作る仕事です。

バリュエーションは、できあがった事業計画にマーケットデータなどを組み合わせ、結果、業績がどれくらいになり、採算がどれだけ取れるかを分析する仕事で、この二つの業務を同一クライアントの事案で同時に進めることもあります。

バリュエーション業務の魅力

バリュエーションの面白みは二つあると考えています。専門性の観点では、会計の分野で見積項目や国際会計基準などについて、監査人やクライアントをサポートすることで、自分の視野が広がることを実感できます。M&Aの取引という観点では、財務DDやビジネスDDなど各種デューデリジェンスで集めた情報を統合し数値に落とし込み、それを基に意思決定を支援します。クライアントの意思決定を左右する基礎資料を提供し、検討をサポートする段階から、実際のトランザクションに移行し、100億円、200億円の取引につながることもあり、ダイナミックさを肌で感じることができます。

新人に期待を寄せる IT 関連業務が進行中

従来からデータ&アナリティクスとして取り組んでいた分析領域のレベルを一つ上げて、2020年7月からIT分野や統計領域に強みを持つ人材を集めてバリュークリエーションオフィス (VCO)^{*1}内にDeals Digital Unitという組織を立ち上げています。クライアントが蓄積した各種データを、高度なツールを使って分析するというものです。多くの業界、企業が持つ未活用データを取り込み、可視化し、クライアントの売上増、コスト削減等につなげる可能性を発掘するため、VCOだけでなく全社的に研修を進めています。

専門知識で勝負するなら、どうしても経験がものを言いますが、新規の分野だけに新人が活躍する場になり得ると考えています。同期が少人数で5人、10人の中の1人ですので、各人にかかる期待は大きく、好奇心を持って頑張れる人であればチャンスはいくらでもある会社だと思っています。

*1：VCOとは、2020年7月に設置されたSDGsに関する取り組みなど社会価値の創造も含む長期的な企業価値創造を支援することを目的とした組織である。



公認会計士試験合格者
シニアアソシエイト

松田 梨沙 Matsuda Risa

新卒は母校の大学に就職。会計事務所転職後、働きながら公認会計士試験の勉強を開始し、2019年度合格。2020年PwCアドバイザリー合同会社に入社。現在は主に、財務DD業務、バリュエーション業務に従事。

ハードルを越えてみて

監査法人に入るつもりで就職活動をしていたところ、偶然当社の会社説明会に参加し、合格後のファーストキャリアとして監査以外の選択肢があることを知りました。その時お会いした人たちが魅力的だったこと、業務にスピード感がある点に惹かれました。M&Aについては詳しくありませんでしたが、今振り返ると説明会終了後には心は決まっていたのだと思います。M&Aアドバイザリーという業務は激務というイメージがあり、周囲からは心配されたものの、それを越えるワクワク感がありました。正直覚悟を持って入社しましたが、実際はとても働きやすく良い意味でのギャップを感じています。

スタッフレベルの仕事としては、対象会社の開示資料を分析してレポートを作成し、プロジェクトによってはクライアントとコミュニケーションをとります。想像以上に裁量が大きく、年次が若くても一人の専門家として意見を求められる場面も多々あります。私がアサインされたプロジェクトは3~5人程度のチーム編成が多く、その中でいろいろな業務を経験させていただき、自分が力を付けつつあることを実感しています。プロジェクト終了後すぐにフィードバックをいただけるため、自身のパフォーマンスを客観的に見つめる良い機会になっています。

広い視野を培える刺激的な仕事

実務未経験から始まるので各人の努力が求められますが、コアコンサルスキルやデジタルツールなどの研修制度も充実しており、会計士としてだけでなく、さまざまなスキルを身に付けることができます。公認会計士になるためには実務要件が必要ですが、独立性を保ちながら監査業務の一部も経験することができます。会計士として自身を差別化するためにも監査法人で経験できることのプラスアルファを重視していたので、その観点からも当社に入社してよかったと考えています。

国内案件を担当していても、M&Aを志向する企業は海外に拠点を持っていることが多いので、グローバルな仕事をしていることを実感できます。海外事務所の若手メンバーと合同で研修する機会もあり、非常に刺激があります。会計士以外の多種多様なバックグラウンドを持った人たちと一緒に働くことで広い視野を培えるというのも魅力の一つです。

2020年の終わりごろに、自身が分析とレポート作成の一部を担当した大型案件が、大手経済紙の一面に載りました。自分の携わった案件が公の目に触れる結果となり、エキサイティングな仕事に関われたという充実感を得ることができました。

いろいろなことに興味を

COVID-19感染拡大の影響でリモートワークが続きますが、1カ月に1回、チームリーダーおよびコーチとの面談があります。業務における相談や、直近のアサインや中長期のキャリア希望も聞いてもらえ、どんな状況でも人材を育成しようという姿勢を感じます。なお、同期とは所属部署を越えて互いの関係性は非常に良好です。会計士は年齢もまちまちですが、一緒に研修を受けた人たちや入社月が同じだった人とは特に親しくしています。

当社は何事にも興味を持てる人に向いている職場です。担当する業界もさまざまなので、コミュニケーション能力を生かし、一つ一つに興味を持って全力投球できれば得るものも大きいのではないのでしょうか。



女性社員から見たPwCアドバイザリーの魅力



マネージャー 藤田 雅子



ディレクター 細田 奈月



シニアアソシエイト 松田 梨沙



マネージャー 根本 有梨子



パートナー 櫻井 奈穂

PwCアドバイザリーを選んだ理由

- 根本** 私は4年ほどの監査法人勤務を経て、事業会社で経営企画、財務部門を経験した後、2019年に入社しました。公認会計士として、より実務に近い立ち位置で専門性を発揮できるという点と、デューデリジェンスの業務内容が自分に向いていると感じた点が決め手でした。
- 藤田** PwCあらた有限責任監査法人（以下、PwCあらた）で9年監査業務を経験し、2018年に転籍しました。会計士としてのキャリアの延長線上でできる仕事を考え、PwCのOEP制度^{*1}に応募したのがきっかけでした。
- 松田** 2019年度公認会計士試験に合格後、2020年に入社しました。試験終了後一斉に始まる就職活動の際、ふと立ち止まり、なぜ会計士を目指したのかを考えたときに、必ずしも監査をしたかったわけではなく自身の選択肢を広げたくかったからだと気がつきました。会計士としての自身の差別化を軸に、会計士×M&Aのプロフェッショナルという切り口で当社を選びました。
- 櫻井** 私が2006年あらた監査法人（現、PwCあらた）が設立されたと同時に当社に転籍した理由は、監査から次のキャリアに経験を広げたいと考えた時に、監査の経験を生かすことができ、かつステップアップする道としてディールズの業界を知ったからです。
- 細田** 2007年にあらた監査法人から当社に転籍後、10年以上経過しましたが、ここまで続けてこられたことはこの仕事が好きで楽しいからです。お客さまに感謝されてやりがいを感じられるのは大きな魅力で、これは私を動かす原動力にもなっています。
- 藤田** 同感です。（全員うなづく）

入社後の印象

- 松田** 私はかなり激務だと覚悟して入ったのですが、実際には働きやすい職場だと認識が変わりました。基本的にすべきことをしていれば認めてくださり、与えられた業務だけでなく自ら積極的に提案することも受け入れていただけます。皆さん親身になって教えてくださるので、非常に居心地がよいと感じています。
- 根本** 職階関係なく思ったことを発言しやすく、またお互いにそれを受け入れようとする雰囲気があると思います。プロフェッショナルとしての意識を持ち、他人の意見に耳を傾けようとする方がすごく多いと感じます。
- 櫻井** お互いにプロフェッショナルとして尊重し合うカルチャーがあると思います。
- 細田** チームとして協力し合いながら仕事するのは、若手が成長するためには必要不可欠だと思います。この点は皆さん意識をしていると思います。
- 藤田** 疑問に感じたこと、相談したいことを、基本的に声を掛けたりいつでも聞いていただける環境なので、コミュニケーションで苦しんだことはあまりありません。

柔軟な勤務形態

- 根本** COVID-19の影響でリモートワークが続いておりますが、私はお昼休憩を入れながら、午前9時から午後7時くらいまで仕事するスタイルにしています。
- 細田** チームでオンラインミーティングやチャットを使って頻繁に会話できるので、リモー



トだからという制約はあまり感じません。若手の人はそばに先輩がいた方がやりやすいとは思いますが。

松田 チャットは気軽にできる雰囲気があり、先輩に質問したり、必要があればビデオ通話も使ったりしています。私は入社して間もなく今の環境になったので慣れてしまったという側面はありますが、皆さん、より積極的にコミュニケーションをとろうという姿勢があると思います。その根底に話しやすい空気があるからこそです。

藤田 忙しい時も確かにありますが、プロジェクトが一段落している時には、やることさえ終わっていれば定時で業務を終了します。仕事の忙しさに波があっても、柔軟にメリハリをつけて働けるのは、当社の業務の良い点だと思います。

櫻井 案件次第で繁忙期のタイミングは異なりますが、仕事にメリハリがあるというのは大きな特徴だと思います。

休暇が取りやすい

細田 休暇は各部署で早めに希望を募り、プロジェクトのアサイン時も配慮した対応が取られます。特にスタッフは休暇が取りやすいのではないのでしょうか。

藤田 最長2週間連続で取れますので、1年に1回は長期休暇を事前に承認していただき、ハワイや欧州など心置きなく旅行の予約を入れていました。最近はCOVID-19の影響で旅行は難しいですが。

松田 私はプロジェクトのないタイミングで休暇を取っており、直近は年末年始に長期休暇を取りました。

根本 育児休暇なども皆さん男女関係なく取得している印象があります。そういった面では、将来自分が育児休暇を取りたい状況に

なった場合でも、気兼ねなく取得できる環境にあると感じています。

グローバルな仕事内容

櫻井 私は海外が関係するクロスボーダー案件が多く、米国に2年間駐在で行かせてもらった経験があります。こうした経験ができるのは、PwCの特徴の一つです。今はCOVID-19の影響を受けて少し減っているかもしれませんが、2年程度海外オフィスで働くことができるGlobal Mobilityというプログラムがあります。また、IAN (International Associate Network) という制度があり、休暇で海外を訪れた際に実際に会うなど、PwCのグローバルスタッフとコミュニケーションができます。クロスボーダー案件では、海外のPwCメンバーファームと連携して案件を進めることも多いです。

松田 2020年5月にはアジアパシフィックの若手メンバーとの合同研修がある予定でしたが、COVID-19の影響で現地に行けなくなってしまいました。現在、メンバーたちとはオンラインでのコミュニケーションのみなので、いつか直接会えるのを楽しみにしています。

櫻井 私は今年、Inclusion & Diversityのチームに所属しており、さまざまな活動をしています。男性パートナーも2人入っています。PwCの「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」というPurpose (存在意義) の下、性別、国籍等にとらわれず、さまざまな視点を持って議論を行っているところです。

細田 ダイバーシティの活動に関連したメールが頻繁に送られてきますし、会社としてかなり熱心に取り組んでいるという印象がありますね。

数字で見るPwCアドバイザリーのDiversity

PwCアドバイザリーは、女性比率の向上、有給・出産・育児特別休暇取得の促進、海外人材の積極的活用を通じて、ダイバーシティを推進しています。

32%

アソシエートの女性比率
(2022年4月1日時点)

アソシエイト・シニアアソシエートの
有給休暇取得日数

(1年在籍者のみ・リフレッシュ休暇含む)
(2020年9月から2021年8月までの期間で集計)

19日

68%

出産特別休暇・育児特別休暇の取得率
(2020年7月から2021年6月までの期間で集計)

外国籍従業員比率
(2022年4月1日時点)

6%

海外駐在経験者

(駐在国：12カ国) (2022年4月1日在籍者の実績)

49名

18時間

平均月次残業時間
(2020年7月から2021年6月までの期間で集計)

PwCアドバイザリーで活躍する先輩の声



PwCアドバイザリーの良いところは、キャリアや出身地域・国など、多様なバックグラウンドを持つ仲間と一緒に仕事ができることだと思います。社内はフラットな雰囲気、クライアントや対象会社の将来の成長について先輩たちと考え、若手のうちからモデル作成など、専門的なスキルを身に付けることができます。プロジェクトで貢献できた時には、性別や職階にかかわらず先輩や上司に評価してもらっていると感じます。

瀬戸 舞佳 (2020年入社)



私がPwCアドバイザリーでの仕事で面白みを感じている点は、仕事を通じて、企業の過去および将来を根拠あるストーリーで語れるようになる、という点です。公認会計士試験で学んだ知識を現実に応用して、クライアントのためにベストな結論を導くという仕事にやりがいを感じます。

若いうちから新聞の一面に載るような案件にも関与することができますよ!

内田 博之 (2019年入社)



PwCアドバイザリーでは新人のうちからM&Aに関する業務を幅広く経験することができます。クロスボーダーの案件も多く、海外のPwCと一緒に働く機会も多いですね。

働き方としては、出社やリモートワークなど、柔軟に選択することができます。クライアントへの報告直前で忙しい時もありますが、通常はワークライフバランスを保ちながら柔軟な働き方ができています。

田村 悠香 (2020年入社)



監査法人と比べて感じるのは、先輩や同期のバックグラウンドがより多様であるということです。いろいろな出身の方たちと、M&Aの案件を通じて一緒に働き、さまざまな業界について幅広い経験を積むことができます。

財務・会計というツールを使って会社を客観的に分析するという経験は、どの業界・職種でも役立つものであり、自分の将来のキャリアプランの点でも貴重な経験を積むことができていると感じます。

高橋 直斗 (2020年入社)



PwCアドバイザリーには妊娠中や子育て中の先輩も多く、男性も育児休暇を取っていて、多様な働き方を受け入れる環境があると感じます。

また、海外案件も多く、海外出向や社内の若手向けの国際交流イベントにも主体的に関与できていて、自分の意思で多様で柔軟な働き方ができる点に魅力を感じます。

葉山 帆月 (2020年入社)



1年目で海外ファームとの合同研修に参加することができ、グローバルな対応力を養うことができました。また、さまざまな業界のM&A案件に従事できるので、幅広い業界や会社に若いうちから関わることができます。

私は現在はバリュエーション業務にメインで従事していますが、他の分野の初心者向けの研修も定期的で開催されていて、幅広く実務的な知見を広げられることも良いなと思っています。

吉本 翔 (2020年入社)

Inclusion & Diversityを重視した 人事制度

フレックス タイム制

コアタイムの10:45～15:45を含むような形で、勤務時間の開始と終了を自由にアレンジできる制度です。これにより、午前中や夕方などプライベートの時間に充てることができます。

リモート ワーク

子育てやさまざまなライフスタイルに合わせて柔軟に働けるよう、リモートワークを導入しています。

長時間労働 予防

午後10時以降のパソコンの使用禁止ルール、残業時間のモニタリングを通じて、PwCは、従業員の心と体の健康維持を最優先にしています。

結婚祝金 (事実婚・同性婚含む)

事実婚、同性婚を含む結婚の場合に、祝い金として、3万円を支給しています。

育児 特別休暇

お子さんが満2歳になる前日までに、15日間の育児特別休暇(有給)が取得可能です。女性のみならず、男性も対象となります。

配偶者の 出産特別休暇

男性については、配偶者の出産から6カ月以内に、育児サポートを目的とした3日間の出産特別休暇を取得できます。

保活 コンシェルジュ サービス

保活に有用な情報やノウハウの提供、保活がうまくいかない場面での心理的サポートなどにより、産休、育休からのスムーズな職場復帰をサポートします。

LGBT インクルージョン

LGBTメンバーが本来の力を最大限に発揮できるインクルーシブカルチャーの醸成に向けて、東京レインボープライドへの参加、婚姻の平等に賛同、LGBT社内ネットワークの構築を実施しています。

ワーキング ペアレンツ ネットワーク

家庭・家族を大切にしながらも、自身らしいライフとキャリアを実現するためのネットワークです。多様なライフスタイル、両立スタイルに触れ、お互いの視野を広げるランチ会を定期的実施しています。

PwCアドバイザーで活躍する会計士をサポートする充実した研修制度

PwCアドバイザー入社後の充実した研修プラン

2カ月 |

24カ月 |

新卒研修

コンサルタントとして働き始めるために最低限必要なロジカルシンキングやプレゼンテーションスキル、表計算ソフトやプレゼン資料作成ソフト等の研修を約2カ月間実施します。この研修は公認会計士定期採用だけでなく新卒でPwCにコンサルタントとして入社するメンバーと共に実施されます。

ローテーション

新卒研修後の24カ月の間、アドバイザーとしての一定レベルのコアケイパビリティを身に付けるために、①財務DD、②バリュエーション&モデリング、③コーポレートファイナンス、④事業再生/オペレーション改善、⑤ディールズストラテジー、⑥官民インフラの6領域について、各2カ月から6カ月単位で集中的に業務に従事します。

DET アサインプール

一定レベルのコアケイパビリティが身に付いた後は、アソシエイトとして Deals Execution Team (DET) アサインプール制へと移行し、原則としてそれぞれの希望に合ったプロジェクトにアサインされます。いろいろな領域を経験することによって、アドバイザーとして知識の幅をさらに広げることも可能ですし、特定の領域でさらなる経験を積むことも可能です。自由度の高い環境で、ご自身の特性を生かしたキャリア形成が可能となります。

Edgeプログラム

PwCはグローバルで新卒スタッフ向けにキャリア支援プログラムとして、「Edgeプログラム」を設けています。このプログラムは、新卒スタッフ間のPwCの海外ファームとのネットワーク構築を目的としており、海外での研修やPwCの海外メンバーファームへの短期出向もプログラムに含まれます。本プログラムを通して、M&Aのアドバイザーとしてのスキルを身に付けてもらうことだけでなく、皆さんの長期的なキャリア形成の観点から、PwCグローバルでのネットワーク構築を支援することを目的としています(詳細はpwc.com/edge参照)。

Global Mobility (海外出向制度)

PwCは、グローバルネットワークを生かしたクロスボーダーM&A取引のアドバイザーを強みとしており、その人材育成の一環として、過去から継続的に、海外出向を推奨しています。主な出向先として、米国、英国、オーストラリア、シンガポール、中国などが挙げられます。

公認会計士資格をサポートする万全の支援制度

PwCあらた
有限責任監査法人で
監査業務補助を実施

決算監査時期に2週間程度、PwCあらた有限責任監査法人の監査チームに参加して監査業務補助を経験することで、公認会計士として登録する際の実務要件を満たせるよう、制度が設けられています。

実務補習所への
通学を優先した
アサインメント

公認会計士として登録するための要件を満たすため、実務補習所の単位を取得する必要がありますが、プロジェクト中であつたとしても、実務補習所へ通えるよう配慮されています。

実務補習所・
公認会計士
登録費用の会社負担

実務補習所および公認会計士の登録費用は会社にて負担します。

修了考査前の
特別休暇
(連続10営業日)

修了考査前に連続10営業日の特別休暇を取得することが可能であり、修了考査に向けた勉強の最後の追い込みを行うことができます。

CPEの
単位取得のための
研修・E-Learning

公認会計士になると継続的専門研修制度(CPE)に従い、3年間で120単位を取得する必要があります。PwCアドバイザリーでは、CPEの単位取得のための研修やE-Learningが用意されています。

PwCアドバイザー合同会社の概要 および募集要項

法人概要

名称	PwCアドバイザー合同会社
URL	www.pwc.com/jp/deal-advisory
設立	1999年6月15日 (2016年2月29日、組織変更を行いPwCアドバイザー合同会社を設立)
代表者	代表執行役 吉田 あかね
人員数	約750名 (2021年6月現在)
所在地	東京 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビルディング TEL:03-6212-6880(代表)
	大阪 〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪タワーA 36F TEL:06-6375-2630

募集要項

募集対象	公認会計士試験論文式試験全科目合格者
業務内容	M&Aに関するアドバイザーサービス
勤務地	東京(大手町) ※ただしプロジェクトによっては地方・海外の場合あり
勤務時間	フレックスタイム制(コアタイム 10:45~15:45) 標準労働時間1日7時間+休憩時間1時間
雇用区分	正社員
時間外勤務	あり
契約期間	期間の定めなし
試用期間	4カ月
採用予定人数	5~10名程度
給与賞与	月例給与 433,340円以上(基本給 341,750円以上、みなし時間外勤務手当 91,590円以上) ※みなし時間外勤務手当は1カ月あたり30時間の時間外勤務手当相当額 ※過去3年の賞与支給実績に基づく年収モデルケース(690万円) 業績賞与あり(業績・貢献度に応じて年1回支給)
休日	土・日曜、祝祭日、年末年始(12月29日~1月3日)、法人統合記念日
休暇	年次有給休暇(20日)、リフレッシュ休暇(5日)、特別試験休暇、慶弔休暇、産前産後休暇、育児休暇、介護休暇など
教育研修	ビジネススキル研修、テクニカルスキル研修、英語プログラム(語学学校費用補助、海外語学研修)など
福利厚生	各種社会保険加入(健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等)、確定拠出年金制度、慶弔見舞金、団体生命保険、資格取得支援制度、契約施設・ホテル・スポーツクラブ等割引利用、各種クラブ活動など
キャリア支援	■会計士登録サポート (実務補習所費用補助、公認会計士登録費用補助、PwCあらた有限責任監査法人での業務補助など) ■Global Mobility(海外出向制度) ■Open Entry Program(公募制異動支援プログラム)
モバイルツール	ノートPC、スマートフォンを貸与

